お孫さんと同じ年齢のお子さんを預かる柳原さん夫婦。優しいおじいちゃん、おばあちゃんのようです

地域とつながる～
シニア世代の生きがいづくり

地域や社会とのつながりを求めて、退職後の男性や夫婦そろって、子育て世代を応援する「ファミリーサポート」に登録する人が増えています。子育て中の家族（依頼会員）を、救急法や保育実習などを受けた協力会員がサポートする仕組みです。世代をつなぐ現場を取材しました。

社会貢献、健康管理に目を向け セカンドライフを生き生きと楽しく

約40年間、サービス業や住宅会社のお客様サービス室に勤務し、62歳で退職した柳原一光（かずみつ）さん（67）。妻の扶美子さん（64）も同時期に退職し、2人一緒にセカンドライフをスタートさせました。

退職を機に社会とのつながりがなくなってしまうことに寂しさを感じていた柳原さん夫婦。そんな時にファミリー・サポート・センター〈熊本〉の活動を知り、早速2人で7日間の講習を受けることにしました。「同じ時期に初孫が生まれる予定もあり、子どもの心身の発達や子どもに起こりやすい事故をどう防ぐかなど、自分たちにも役立つ講習ばかりでした」と一光さんは笑顔を見せます。

活動を始めると、両親や親戚など、周囲にすぐに頼れる人がいない子育て世代に代わり、幼稚園のお迎えに行ったり、時には夕食を食べさせたりすることもあったそうです。「それぞれの家庭の教育方針や食生活もあるので戸惑いを感じたこともありますが、なるべく親御さんの思いに添うようにお預かりしてきました」と扶美子さん。子育てをしている人たちの役に立てていること、子どもたちが笑顔で「おいしかったよ」と帰っていく姿が励みになっているようです。

取材日は、6歳の女の子を幼稚園にお迎えに行きました。「ただいま～」。柳原さん宅に着くと、女の子はお決まりのお絵かきに夢中。柳原さん宅が一気に和やかになります。

退職後も、常に情報収集を欠かさず、興味のある講座には積極的に参加し、人と関わることに目を向ける柳原さん夫婦。社会の中での役割を持つことが「人生100年時代」を健康で元気に過ごすための原動力になっているようです。

送迎の運転は一光さんの担当

柳原さん夫婦の セカンドライフを楽しく、元気に過ごす秘けつ

1. **社会貢献** 社会との関わりを持ち続ける
2. **情報収集** 新聞、フリーペーパー、インターネットで情報をチェック！
3. **食生活** 1日3食規則正しく、塩分、糖分控えめにゆっくり時間をかけて食べる
4. **健康管理** 1日6000歩のウオーキング、ウオークラリーなどイベント参加、定期的な健康診断を欠かさない
5. **夫婦共通の趣味** 旅行を楽しむ

「ファミリーサポート」ってどんなことをするの？

「保育園のお迎えに間に合わない」「用事があるので、子どもを見てほしい」「子どもが病気だけど仕事を休めない」…。そんなときに、事前に講習を受けた協力会員が保護者に代わって送迎や預かりをする有償システムです。

子どもは“社会みんなで育てるもの”。ファミサポでは多くの女性会員が活動されていますが、これからは男性の社会参加の場としても会員層を広げていきたいです。

ファミリー・サポート・センター〈熊本〉
問 ☎096(345)3011

人生の新たな目標へ向け 動き出す時 それが私のセカンドライフ

今年10月に協力会員として登録したばかりの濵田義孝さん（39）、詩織さん（36）夫婦。延壽院（西区）の副住職として働く傍ら、あらためて寺の役割や存在を考えたときに、お寺を「もっと幅広い世代の人々が自由に行き来できるような、地域の寄り合いの場に戻していく必要がある」と考えたそうです。

そこで熊本市結婚子育て応援団への登録と合わせて、ファミリー・サポート・センター〈熊本〉の協力会員にも登録。約26時間にわたる9項目の講習を受けながら、子育て支援に関わる準備を整えました。

まだまだセカンドライフには程遠い2人のようですが、「私にとってのセカンドライフは、仕事や年齢による人生での区切りという捉え方ではありません。新たな目標に向けて動き出す時が、セカンドライフと言えると思います。今はその実現に向けた準備段階といったところ」と義孝さんはほほ笑みました。

講習内容を聞き漏らさないよう熱心にメモを取る濵田義孝さん夫婦